

平成31年度

全国学力・学習状況調査

特徴的な問題

一校内研修及び授業に生かすために一

令和元年5月

富山県教育委員会

「特徴的な問題」とは

教員による指導方法の改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等につながるよう、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題

- ◎ 「特徴的な問題」を、上記のような問題として取り上げました。
今、求められている「身に付けるべき資質・能力」を理解し、学習指導の改善・充実を図ることができるよう、校内研修等でご活用ください。

- ◎ 各小・中学校で協力いただいたアンケート『児童生徒にとって課題のみられる問題』の調査結果を掲載しました。参考にしてください。

【平成31年度版】目 次

	ページ
○ 特徴的な問題	
1 小学校「国語」	1
2 中学校「国語」	4
3 小学校「算数」	7
4 中学校「数学」	10
5 中学校「英語」	13
○ 平成31年度全国学力・学習状況調査問題に関するアンケート調査結果	17
○ 平成31年度全国学力・学習状況調査の傾向（児童生徒質問紙）	19
○ 平成31年度全国学力・学習状況調査の傾向（学校質問紙）	22

1 小学校「国語」

(1) 国語 設問番号1一 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）

学習指導要領の領域等：5・6学年 B書くことエ

評価の観点：書く能力 問題形式：選択式

【出題の趣旨】 図表やグラフ等を用いた目的を捉えることができるかどうかをみる。

目的や課題に応じて図表やグラフ等の資料を意図的・計画的に用いることができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

28年度小学校B	2一	(県 43.6%	国 43.4%)
28年度小学校B	2二(1)	(県 54.0%	国 51.4%)
28年度小学校B	2二(2)	(県 68.8%	国 64.2%)

4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。

3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。

2 内容ごとに分類して示し、大まかな持ちょうを伝えるため。

1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのがいを伝えるため。

その番号を書きましょう。

一 高橋さんは、「報告する文章」で〈資料2〉と〈資料3〉を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

2 調査の内容と結果 (略) 高橋 めぐみ

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか
 多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。
 そこで、地いきの人三十人を調査のたいしようとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが〈資料2〉です。「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。
 このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

(略)

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか
 公衆電話が必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが〈資料3〉です。
 この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

(略)

1 高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある「報告する文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】

公衆電話について

〈資料2〉 公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

〈資料3〉 公衆電話の設置場所を示した地図

正答

〈資料2〉 …… 2

〈資料3〉 …… 4

学習指導上の留意点

○ 図表やグラフ等の情報を本文と関係付けて読むことができるようにする
 文章と図表、グラフ等とが複合した教材を取り上げ、目的に応じて内容や数値等の情報を正確に捉えた上で、それらと関係付けながら書き手の意図を推論したり、自分の考えに生かしたりすることができるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 図表やグラフ等からどのようなことを読み取ることができるかを考えさせる。
- ② 図表やグラフの内容が文章のどこに取り上げられているのか、図表やグラフがあることによって文章がどのように分かりやすくなっているかなど、文章と図表やグラフ等との関係やその効果を捉えさせる。

・参考：報告書 27年度 P.56～P.64 28年度 P.60～P.63 授業アイディア例 27年度 P.6 28年度 P.6 「4年間のまとめ【小学校編】」 P.6 P.11

(2) 国語 設問番号2-1(2) 疑問に思ったことを調べ、紹介し合う(「食べ物の保存」)

学習指導要領の領域等：5・6学年 C読むことウ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、読む能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが
読むことができるかどうかをみる。

疑問に思ったことを明らかにするために本や文章を選び、内容を的確に押さえて読むことができる
かどうかをみる問題

(関連する問題と正答率)

28年度小学校B3三 (県 56.9% 国 52.9%)

30年度小学校B3二 (県 59.2% 国 52.3%)


【資料】食べ物の保存について書かれた本のページ

2

宮原さんの学級では、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ、友達と紹介し合う
ことにしました。次は、宮原さんの「ノートの一部」と宮原さんが選んだ「資料」です。これら
をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「ノートの一部」

食べ物の保存について
(略)



宮原さん

食べ物を保存する

◆ 食べ物は生命の源
生き物は、食べ物がなければ生きていくことができません。食べ物を安定して確保することは、生きる上で欠かせないことです。
例えば、リスは秋になるとドングリを土にうめ、食料をたくわえます。クマはたくさんの食べ物を食べ、体に栄養をたくわえて冬眠に入ります。動物たちは、このようにして生きぬいているのです。
わたしたち人間は、食べ物を保存する技術がなかったころは、いつでもおなかを満たすことができるというわけではありませんでした。季節や天候などにより、農作物や肉、魚などが手に入らないことがあったからです。また、運よく大量の食べ物が手に入ったとしても、そのままにしておくと、くさって食べられなくなってしまうこともありました。そのため、人々は昔から様々な方法で食べ物の保存を試みてきました。失敗をくり返しながよりよい保存方法を獲得し、次の世代へつないできたのです。

◆ 保存のふしぎ
食べ物がくさる主な原因は、食べ物をくさらせる細菌が増えることです。その細菌は食べ物の水分を利用して増えます。そのため、水分が少なくなれば細菌は増えにくくなり、食べ物はくさりにくくなります。
では、水分を少なくするにはどのようにしたらよいのでしょうか。例えば、塩や砂糖を使うという方法があります。塩や砂糖には水分を吸い出すはたらきがあるので、塩や砂糖を使ってつけることで水分を少なくすることができるのです。また、かんそうさせるという方法もあります。日光や風に当てて干すことで、水分を蒸発させることができます。
これらの方法を使った保存食には次のようなものがあります。

<p>塩を使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山菜の塩づけ ・豚肉の塩づけ ・魚の塩づけ 	<p>砂糖を使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物の砂糖づけ ・ジャム 	<p>かんそうさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り干し大根 ・かんびょう ・こんぶ
---	--	---

(2) 宮原さんは「資料」を読み、ノートにまとめています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

「ノートの一部」の「イ」に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、
イ

「条件」

〇〇〇 疑問に思ったこと ②の答えになるように考えて書くこと。
「資料」から言葉や文を取り上げて書くこと。
四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。

学習指導上の留意点

〇 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが
読むことができるようにする

何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのか、という目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読むことができるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 文章に書かれている課題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方
や巧みな叙述等について注意して読むことを重視する。
- ② 自分が興味・関心をもったことについて、興味・関心の根拠となる叙
述を取り上げて、その理由を説明する場を設ける。
- ③ 自分の考えを明確にするために必要な叙述を選び、他の部分に書かれ
ている叙述と比べたり、自分の知識や経験、考え等と関係付けたりしな
がら自分の考えをまとめさせる。

・参考：報告書 28年度 P. 70～P. 77 30年度 P. 68～P. 75
授業アイデア例 28年度 P. 7～P. 8 30年度 P. 7～P. 8

正答例
季節や天候により、食べ物が手に入らな
いことや、手に入ったとしても、そのま
まにしておくと、くさって食べられなくな
ってしまうこともあったから。(69字)

(3) 国語 設問番号 3 地域で活躍する人を紹介する(豊職人へのインタビュー)

学習指導要領の領域等：5・6 学年 A 話すこと・聞くことエ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、話す・聞く能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

平成 28 年度【小学校】国語 B 1 三において「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること」に課題がみられたことを踏まえて出題された問題
(関連する問題と正答率)

28 年度小学校 B 1 三 (県 56.1% 国 50.4%) 30 年度小学校 B 1 三 (県 40.1% 国 33.8%)

3 岸さんは、町の広報紙に取り上げられていた豊職人の大谷さんを、学級の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることにしました。次は、「広報紙の記事」、「直接聞いてみたいこと」、「インタビューの様子」

【広報紙の記事】 (略)

【直接聞いてみたいこと】 (略)

【インタビューの様子】 (略)

大谷さん (略)

岸さん 豊を作る技術やお客様への接し方は、とにかく親方の仕事ぶりをよく見ていました。大谷さんは、親方の姿をよく見て技術や接し方を身につけたんですね。

大谷さん いやいや、見るだけでは身につけられません。「習うより慣れよ」ということわざにもあるとおり、実際に自分でやってみることを何度もくり返すのです。私はとても不器用なので大変さがありました。何とか親方のようになりたいと思いますながら、修業をしていました。

岸さん そのような思いをもっていたんですね。大谷さんは、他に、どのような思いや考えをもって、五十年間仕事を続けてきたのですか。

大谷さん 思いや考えですか。なかなか難しい質問ですね。

岸さん すみません。では、五十年間仕事を続けてきた中で大切にしてきたことや心構えはありますか。

大谷さん そうですね。五十年も職人をしていいますが、いまだに完べきだと思える仕上がりはありません。だからこそ、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと挑戦し続けるのです。これが、ずっと大切にしてきたことですかね。

岸さん お話を聞いて、大谷さんの仕事への思いや考えが分かりました。特に、
またぜひお話を聞かせてください。今日は本当にありがとうございました。

イ

三 岸さんは、インタビューの最後に、大谷さんの仕事への思いや考えに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。【インタビューの様子】の「イ」に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 【インタビューの様子】の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。
- インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること。
- 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

正答例 (特に、)自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうとちよう戦し続けているところが心に残りました。(57 字)

学習指導上の留意点

○ 目的意識をもって、主体的に聞くことができるようにする

インタビューの目的に応じて、相手の意図は何か、自分の予想との違いは何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として、相手の話を注意深く聞くことができるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 相手の話を受けることよさを考えさせたり、相手の話を受け、どのような言葉で返すことができればよいかについて具体例を挙げさせたりする。
- ② 相手の話の内容を確認した上で質問したり、相手の話の内容を言い換えて、確認するために質問したりするなど、相手の話の内容と関連付けて質問できるようにする。
- ③ 話し手の発言内容の中から、中心となる考え、理由や根拠等を、短い言葉で要約してメモ等書き留めさせる。

・参考：報告書 26 年度 P. 48～P. 57 28 年度 P. 52～P. 59 授業アイデア例 30 年度 P. 4

2 中学校「国語」

(1) 国語 設問番号 1三 情報を読む (新聞)

学習指導要領の領域等：1 学年 C 読むことオ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、読む能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

短歌の中の言葉を取り上げて想像できる情景や心情を書くとともに、想像した内容について感じたことや考えたことを具体的に書くことができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

26 年度 B 3三 (県 52.1% 国 46.5%) 29 年度中学校 B 1三 (県 44.7% 国 41.4%)

正答例 「新しい」と「背筋を伸ばして始まりを待つ」という表現から、新年度の最初の授業の始まりを、期待と不安とが混ざった気持ちで待っている様子が想像できます。新年度を迎えると、皆気持ちを引き締めたり決意を新たにしたりするものです。

条件 1 選んだ短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くこと。
条件 2 条件 1 で想像した内容について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

三 「みんなの短歌」に掲載されている内山さんの短歌、森川さんの短歌、松田さんの短歌の中から一首を選び(どの短歌を選んで)もかまいません。その短歌を読んであなたが感じたことや考えたことを、「選者より」を参考にしながら、次の条件 1 と条件 2 にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

7 文化 2019年(平成31年)4月14日(日曜日) 全国中学生新聞

声の広場

今年こそ優勝!!
残せ感動
残すな後悔

(中2・野球好き)

私の猫のうんちも春が好きな匂い、暖かく感じたね。

(中3・こねこ)

みんなの短歌

今回は、新年度を迎えたフレッシュな心境を表現した作品が集まりました。

目覚めるジリジリと鳴る前に胸が高鳴る入学の朝
中一 泉 あきら

【選者より】「ジリジリと鳴る前に」と「胸が高鳴る」という表現から、いつもは目覚まし時計の音で起きているのに、この日の朝は、胸がどきどきして目覚まし時計が鳴る前に起きてしまったことが想像できます。入学式の朝は、新しい生活に思いを巡らせて、落ち着かない気持ちになるものです。

新しいノート教科書取り出して背筋伸ばして始まりを待つ
中一 内山 誠一

玄關の鏡の前でもう一度前髪笑顔ボタン笑顔と
中二 森川 りか

春風がいつもの道を駆け抜ける皆の足取り自然と軽く
中三 松田 花子

■投稿先 〒100-6543 東京都千代田区中央3 全国中学生新聞「声の広場」係 FAX 000-123-xxxx メール zenkoku@xxx.xx.xx

▼イラストははがき大。「みんなの短歌」は1通に2首まで。▼氏名、学年、住所、電話番号を明記。イラストはペンネーム可。

学習指導上の留意点

- 感じたことや考えたことを交流し、自分なりのものの見方や考え方が分かるように説明することができるようにする
詩歌等を読んで、感じたことや考えたことを交流する際には、なぜそのように感じたのか、表現のどこからそのように考えたのかなど、根拠を明確にして説明することが大切である。

指導のポイント

- ① 詩歌等を読み、印象に残った描写を取り上げ、なぜその描写が印象に残ったのかを具体的に説明する学習活動に取り入れる。
- ② 詩歌等を読み、比喻や反復等の表現の技法についての知識を生かすなど、これまでの学習を踏まえるようにする。
- ③ 詩歌等に書かれたものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方を対比させて、自分の考えを再構築する学習活動を取り入れる。

・参考：報告書 29 年度 P. 68～P. 75 言語活動事例集【中学校版】P. 45～P. 46 P. 47～P. 48

(2) 国語 設問番号 2 二 話合いをする(文化祭)

学習指導要領の領域等：1 学年 A 話すこと・聞くことウ

評価の観点：話す・聞く能力 問題形式：選択式

【出題の趣旨】 相手に分かりやすく伝わる表現について理解しているかどうかをみる。

相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣い等についての知識を生かして話すことができるかどうかをみる問題

(関連する問題と正答率)

29 年度中学校 A 7 一 (県 56.8% 国 54.0%)

- 1 場面③における西野さんの発言の一部を具体的に言い換えて確認しながら、自分の考えを示している。
- 2 場面③における西野さんの発言の一部を取り上げ、様々な考えを出し合うように周囲に促している。
- 3 場面③における西野さんの発言の要旨をまとめながら、話し合いを通して導かれた結論を述べている。
- 4 場面③における西野さんの発言と他の人の発言との相違点を示し、議論の要点を確認している。

正答 1

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいつ感じたり、段差に気付かずに驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください。」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん

ネットにそのようなニュースが出ているんですね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくないと思います。別の表現にしてはどうでしょうか。

山下さん

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合わないといけませんね。以前から、私も気になっていました。

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

倉田さん 山下さん

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていなことがありません。

A

- 2 第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にしたい文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、【話し合いの一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(場面①から場面③は、連続した場面です。)
- 【話し合いの一部】
- 場面① (略)
- 場面②
- 場面③

学習指導上の留意点

○ 相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すことができるようにする

聞いただけでは意味が分かりにくい言葉や日常生活で使うことが少ない言葉等については、聞き手の反応を踏まえて分かりやすい言葉に言い換えたり、説明を加えたりすることが重要である。

指導のポイント

- ① 聞き手の反応を踏まえて、内容を補足したり言葉を言い換えたりするなど、どのように対応すればよいのかを具体的に考える活動を取り入れる。
- ② 言い換えた言葉が文脈に沿った正しい表現になっているかを確認させる。
- ③ 相手に分かりやすい語句を選んで話すことができたかという観点から話し方を振り返らせる。

・参考：報告書 27 年度 P. 24～P. 26 29 年度 P. 46～P. 48
言語活動事例集【中学校版】P. 19～P. 20

(3) 国語 設問番号 3二 意見文を書く (地域の店)

学習指導要領の領域等：1 学年 B 書くことウ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、書く能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

平成 28 年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語 B 2二において、「目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くこと」に課題がみられたことを踏まえて出題された問題

(関連する問題と正答率)

28 年度小学校 B 2二(1) (県 54.0% 国 51.4%)

28 年度小学校 B 2二(2) (県 68.8% 国 64.2%)

3

青木さんは、「地域と私たちのつながり」というテーマで意見文を書いています。次は、青木さんが書いた「意見文の下書き」と、読み返したあと新たに取材して見付けた、青木さんが住んでいる地域の「広報誌の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

最近、我が家ではインターネットを利用して買い物をする機会が増えている。それは、店に行かなくても豊富な商品を選べる上、重い荷物を持たなくてよいからだ。母も「便利になった。」と喜んでいる。これは、インターネットでの買い物ならではの利点だ。しかし、^①皆が買い物も多くをインターネットで済ませるようになったら、地域の店はいつだってなくなってしまうのだろうか。

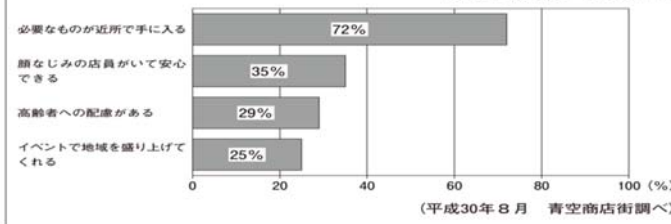
地域の店はこれからは必要だ。なぜなら、地域の店には、インターネットでの買い物にはない魅力があるからだ。私は昨年度、学校の近くの店で職場体験をした。その店では、インターネットでは出回らない、地元の特産品を販売していた。私が自宅で作っている箸もその店で買ったもので、地元の木で作られている。他では買えないその土地ならではの商品を、手に取って選ぶことができるのは、地域の店の魅力だ。

^②我が家でも買物の仕方を見直し、インターネットだけでなく地域の店も積極的に利用し、その店を通して地域の魅力をどんどん見付けていきたい。皆さんも毎日の暮らしに目を向けて、地域とのつながりについて改めて考えてみてはどうだろうか。

【広報誌の一部】

利用者が感じる地域の店の魅力

(回答者数360人・複数回答可)



二 青木さんは、「意見文の下書き」の線部「魅力」の具体例に自分の体験を挙げるだけでは足りないと考え、「広報誌の一部」にある情報を用いて、^②のところに文章を書き加えることにしました。あなたなら、どのような文章を書き加えますか。次の書き出しに続けて、「広報誌の一部」を見ていない人にも分かるように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。書き出し

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

学習指導上の留意点

- 説得力のある文章にするためには、根拠を示す必要があることを理解して書くことができるようにする
図表やグラフから目的に応じて情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが重要である。

指導のポイント

- ① 資料から得た情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討させる。
- ② 自分の考えを伝えるための根拠として文章中に図表やグラフを用いる場合は、文章と関係付けながら図表やグラフ等を読むことができるようにする。
- ③ 読み手に分かりやすく伝わるように、必要に応じて自分なりの考えを加えさせる。

・参考：報告書 小学校 28 年度 P. 60～P. 66

正答例
回答者全体の七十二パーセントが挙げている「必要なものが近所の手に入る」ことも地域の店の魅力だ。

3 小学校 算数

(1) 算数 設問番号 1(3) 図形の構成と筋道を立てた考察(台形)

学習指導要領の領域：5 学年 B 量と測定(1)ア

評価の観点：数学的な考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成したり、図形について筋道を立てて考察し表現したりすることができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

19 年度小学校 B 1(2) (県 90.1% 国 88.1%)

28 年度小学校 B 5(1) (県 8.6% 国 6.9%)

1(3)



ちひろ

わたしは、ほかの求め方を考えました。

【ちひろさんの求め方】

$$5 \times 4 = 20$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$\underline{20 - 4} = 16$$

答え 16 cm²

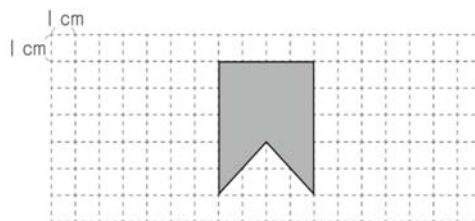


図1

【ちひろさんの求め方】の中の「20 - 4」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、図1を使って考えてもかまいません。

正答例

20は、長方形の面積を表しています。4は、三角形の面積を表しています。

20 - 4は、長方形の面積から三角形の面積を引いていることを表しています。

学習指導上の留意点

○ 図形と式を関連付けて、式の意味を説明することができるようにする

言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者に分かりやすく説明したりできるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 既習の考えや経験を基に面積の求め方を考えたり、公式をつくったりする過程を重視する。
- ② 具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフ等を用いたりして、自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする活動を取り入れる。
- ③ 図形と式を関連付けて明らかになった式の意味について、児童同士で再度確認したり、ノートに記述して整理したりする活動を取り入れる。

・参考：解説資料 30年度P.43 報告書 28年度P.95

授業アイデア例 28年度P.13～P.14

「4年間のまとめ」P.30～P.32

(2) 算数 設問番号 3(4) 計算の仕方の解釈と発展的な考察(計算の工夫)

学習指導要領の領域：3 学年 D 数量関係 (1) 5 学年 A 数と計算 (3) ア、イ、ウ
評価の観点：数量や図形についての知識・理解 問題形式：選択式

【出題の趣旨】 示された除法の式の意味を理解しているかどうかをみる。

計算の仕方を解釈して適用したり、発展的に考察したりすることができるかどうかをみる問題
(関連する問題と正答率)

25 年度小学校 B 2(1) (県 53.0% 国 51.7%)

28 年度小学校 B 3(1) (県 66.1% 国 62.6%)

3

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

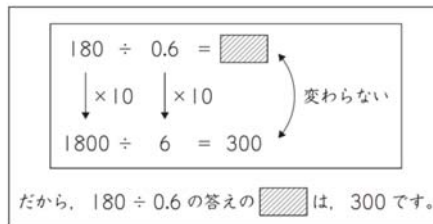
問題

リボンを 0.6 m 買ったときの代金が 180 円でした。
このリボン 1 m 分の代金は、いくらですか。



1 m 分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。



$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の あ から え までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

あ 0.6 m 分の代金

い 1 m 分の代金

う 6 m 分の代金

え 10 m 分の代金

正答 い

学習指導上の留意点

- 式の意味を問題場面と関連付けて解釈し、その意味に基づいて的確に判断できるようにする
日常生活の問題の解決において、除法の式を用いて数量を求めたり、除法の意味に基づいて的確に判断したりできるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 式が表す意味を問題場面と関連付けて考え、式の答えが表す内容を基に判断する活動を取り入れる。
- ② 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を見いだしたり、整数の除法に関して成り立つ法則が、小数の場合でも成り立つことを確かめたりする活動を取り入れる。
- ③ 計算が簡単になるなどの数学のよさに気づき、生活や学習に活用しようとすることができるようにする。

・参考：報告書 28年度P.78～P.80

(3) 算数 設問番号4(3) 日常生活の事象を数理的に捉え判断すること
(遊園地での待ち時間)

学習指導要領の領域：5 学年 B 量と測定(4) ア D 数量関係(1) ア

評価の観点：数学的な考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することができるかどうかをみる。

日常生活の問題の解決のために、場面から伴って変わる二つの数量を見だし、数学的に表現・処理して、判断することができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

25 年度小学校 B 4(1) (県 47.3% 国 43.1%)

26 年度小学校 A 4(2) (県 64.6% 国 60.8%)

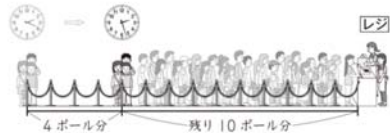
4

(3) はるとさんたちは、限定商品を買いたいと思っています。次の予定があるので、午後3時まではレジに着きたいと考えています。

列に並ぶと、レジまでは14ポール分ありました。ポールとポールの間の長さはどこも同じです。



はるとさんたちが並んでから、4ポール分進むのに8分かかり、残り10ポール分になりました。午後3時までは、残り33分間です。そこで、33分間以内にレジに着くことができるかどうかを考えてみました。

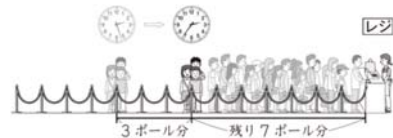


はると

4ポール分進むのに8分かかったことから、残り10ポール分も同じ進みぐあいに進むとして考えます。
 $8 \div 4 = 2$ で、1ポール分には2分間かかります。
 残り10ポール分なので、 $2 \times 10 = 20$ で、20分間かかります。
 だから、33分間以内にレジに着くことができます。

ところが、レジにいる店員さんが減ってしまいました。それからは、3ポール分進むのに9分かかり、残り7ポール分になりました。午後3時までは、残り24分間です。

そこで、はるとさんたちは、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、もう一度考えてみました。



あかり

3ポール分進むのに9分かかったことから、残り7ポール分も同じ進みぐあいに進むとして考えます。

3ポール分進むのに9分かかかる進みぐあいに進むとすると、残り7ポール分進むのにかかる時間は何分間ですか。

求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。さらに、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 着くことができる。
- 2 着くことができない。

正答例

【求め方】 $9 \div 3 = 3$ で、1ポール分には3分間かかります。残り7ポールなので、 $3 \times 7 = 21$ で、21分間かかります。【答え】21(分間) 【番号】1

学習指導上の留意点

- 日常生活の問題の解決のために、情報の中から条件に合うものを選択し、数学的に処理できるようにする

日常生活の問題の解決のために、様々な情報の中から必要な情報を収集した上で、条件に合うものを選択し、数学的に処理できるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 児童自らが情報を整理した上で、必要な情報を選択し、問題解決する活動を設定する。
- ② 判断の理由について、用いた数の意味や式の意味、答えの意味等、根拠を明確にしながから説明することを重視する。

- ・参考：解説資料 30年度P. 68～P. 75
 報告書 29年度P. 70～P. 76 30年度P. 88～P. 93

4 中学校 数学

(1) 数学 設問番号 6 (2) 事象の数学的な解釈と問題解決の方法 (冷蔵庫)

学習指導要領の領域：2 学年 C 関数 (1) イ、エ

評価の観点：数学的な見方や考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

日常生活や社会の事象を考察する場面において、与えられた表から必要な情報を選択し、数学的に表現することにより事柄が成り立つ理由等を的確に説明できるかどうかをみる問題 (関連する問題と正答率)

28 年度中学校 B 3 (3) (県 38.9% 国 30.3%)

6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫 A、冷蔵庫 B、冷蔵庫 C について調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫 A	冷蔵庫 B	冷蔵庫 C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1 年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

(2) 健太さんの家では、7 ページの健太さんが作った表で、容量が 500 L である冷蔵庫 B と冷蔵庫 C のどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入して x 年間使用するときの総費用を y 円として、冷蔵庫 B と冷蔵庫 C の総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫 C の方が高いので、最初のうちは冷蔵庫 B より冷蔵庫 C の方が総費用が多いね。」

お姉さん「1 年間あたりの電気代は冷蔵庫 C の方が安いので、使い続けると冷蔵庫 B より冷蔵庫 C の方が総費用が少なくなるね。」

健太さん「それなら、2 つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫 B と冷蔵庫 C の総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫 B と冷蔵庫 C の総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらかを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ



〈正答の条件について〉

アを選択し、次の (a) について記述しているもの、または、イを選択し、次の (b) について記述しているもの。

(a) 方程式を解いて、使用年数を求めること。

(b) グラフの交点の座標から、使用年数の値を読み取ること。

(a) について、方程式を用いることのみを記述しているものは不十分。

(b) について、グラフを用いることのみを記述しているものは不十分。

正答例

〈アを選択した場合〉

・ 冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める。

〈イを選択した場合〉

・ 冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、使用年数と総費用の関係を一次関数のグラフに表して、その交点の座標を読み取り、使用年数の値を求める。

学習指導上の留意点

○ 問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフ等の「用いるもの」とその「使い方」について明らかにすることができるようにすることが大切である。

指導のポイント

① 「連立方程式をつくり、それを解いて求める」や「2 つのグラフの交点の x 座標を読み取る」など、問題解決の方法を説明し合い、互いの説明を比較検討する活動を取り入れる。

② グラフや式を用いるなど、数学を活用するよさを感じ得できるようにすることで、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度を育成する。

・ 参考：解説資料 28 年度 P. 99～P. 103 報告書 28 年度 P. 113～P. 118

(2) 数学 設問番号7 (3) 証明することや反例をあげることを通して、統合的・発展に考察すること(四角形の条件変え)

学習指導要領の領域：2学年 B図形(2)ウ

評価の観点：数学的な見方や考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。

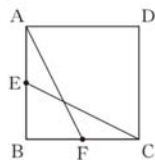
考察して分かったことを振り返り、図形の形を変えても同じ結論が成り立つための前提を見だし、数学的に表現できるかどうかをみる問題

7

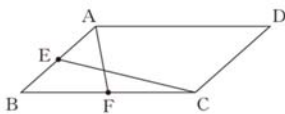
(3) 真由さんは、これまでに調べたことを、次のようにまとめました。

まとめ

◎「正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF=CE$ になる。」ということが成り立つ。



◎「平行四辺形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF=CE$ になる。」ということが成り立たない。



上のまとめから、「四角形ABCDが正方形ならば、 $AF=CE$ になる。」ということが成り立つことと、「四角形ABCDが平行四辺形ならば、 $AF=CE$ になる。」ということが成り立たないことがわかります。

正方形でない四角形で、 $AF=CE$ になる四角形ABCDを考えます。四角形ABCDがどんな四角形ならば、 $AF=CE$ になりますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

〈正答の条件について〉

「○○ならば、◇◇になる。」という形で、次の(a)、(c)または(b)、(c)の条件を満たし、成り立つ事柄を記述しているもの。

(a) ○○が、「四角形ABCDがひし形」である。

(b) ○○が、「四角形ABCDが $AB=BC$ の四角形」である。

(c) ◇◇が、「 $AF=CE$ 」である。

(b)について隣り合う2辺が等しい四角形について記述しているが、 $AB=BC$ の記述がしていないものは不十分。

正答例

- ・ 四角形ABCDがひし形ならば、 $AF=CE$ になる。
- ・ 四角形ABCDが $AB=BC$ の四角形ならば、 $AF=CE$ になる。
- ・ 四角形ABCDが対角線ACとBDが直交し、BDがACを二等分する四角形ならば、 $AF=CE$ になる。

学習指導上の留意点

○ 付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする

新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れ、付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 問題に示されている条件の一部を変えた場合の図形の性質を考察する際に、もとの問題の証明を振り返りながら方針を立てるといった見通しをもって証明する場面を設定する。
- ② 条件の一部を変える前と変えた後の2つの証明を比べ、証明に用いた条件の違いに着目し、2つの図形の違いを考察する活動を取り入れる。

・ 参考：報告書 30年度P.126～P.127

授業アイデア例 30年度P.13～P.14

(3) 数学 設問番号 8 (2) 分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること
(図書だより)

学習指導要領の領域：1 学年 D 資料の活用(1)イ

評価の観点：数学的な見方や考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

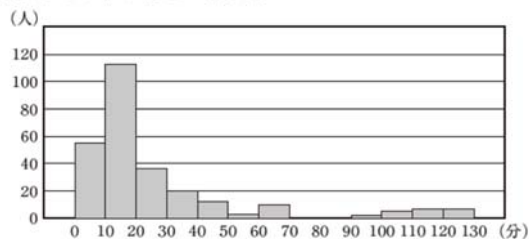
日常生活や社会の事象を考察する場で、資料やグラフなどを適切に読み取り、資料の傾向を捉え、批判的に考察して、判断の理由を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

8 (2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」

桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

〈正答の条件について〉

- ・ 次の(a)、(c)、または(b)、(c)について記述しているもの。
- (a) 1日あたりの読書時間である26分が、山の頂上の位置にないこと。
- (b) 1日あたりの読書時間である26分が、度数が最大である階級に含まれていないこと。
- (c) 1日に26分ぐらい読書している生徒が多いといえそうだ、という考えは適切ではないこと。

正答例

- ・ 1日あたりの読書時間である26分は山の頂上の位置にないので、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。
- ・ 度数が最大となる階級は10分以上20分未満の階級であるので、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。
- ・ 1日あたりの読書時間である26分が含まれる階級は、度数が最大となる階級ではないので、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。

学習指導上の留意点

○ 判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする

資料の傾向を的確に捉えることができるようにするために、資料の分布の様子を捉え、説明することができるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 自分の判断とその根拠を資料の分布の特徴を捉えて説明したり代表値を用いて説明したりする活動を取り入れる。
- ② データを収集し、コンピュータ等を利用して処理し、資料の傾向を捉え、改善の手立てや対策を見だし、それを実践し、その効果についてデータを収集して評価するという一連の活動を経験する機会を設ける。

・ 参考：解説資料 29年度P. 121～P. 127 報告書 28年度P. 126～P. 130
授業アイデア例 28年度P. 11～P. 12

5 中学校「英語」

(1) 英語 「聞くこと」設問番号4 聞いた内容について適切に応じる

学習指導要領の領域： ア聞くこと(ウ)

評価の観点： 外国語理解の能力 問題形式： 記述式

【出題の趣旨】 聞いて把握した内容について、適切に応じることができるかどうかをみる。

話し手からの依頼、提案等を聞き、適切な応答を相手に返すことで、その内容や意図を正しく理解しているかどうかをみる問題

〈関連する問題〉

30年度予備調査4

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

スクリプト

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

正答例 You can try the judo.

学習指導上の留意点

- 身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答することができるようにする

話し手からの質問や指示、依頼、提案等を聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切な応答を相手に返せるようになることが大切である。

指導のポイント

(聞くこと)

- ① 場面や状況等の設定を工夫し、話し手からの働きかけに対して様々な反応をする活動を行わせ、どのような応答があり得るか考えさせる。
- ② 相手の言ったことに対して確認したり、交渉したりするなど、やり取りを伴う応答ができるように指導する。

(書くこと)

- ① 聞いた内容に関する感想、賛否やその理由等を書く活動を取り入れる。
- ② 話題となっている内容を聞いて理解し、それを基に思考・判断したことについて、自分の考えや気持ち等を主体的に伝え合う言語活動を設け、その発話内容を整理しながら書くなど、領域間の統合を図った活動を取り入れる。

・参考：中学校学習指導要領解説外国語編(H29.7) P.56～P.57 P.68～P.69

(2) 英語 「読むこと」設問番号8 読んだ内容について適切に応じる

学習指導要領の領域：ウ読むこと(オ)

評価の観点：外国語理解の能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見等を捉えることができるかどうかをみる。

読んだ後に感想や意見、賛否、また、その理由を示すことを念頭に置いて、話の内容や書き手の意見等を主体的に捉えることができるかどうかをみる問題

〈関連する問題〉

30年度予備調査8

8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

正答例 We should not buy too much food.

学習指導上の留意点

○ 社会的な話題に関して読んだことを基に、その内容に関する自分の意見や感想等を書くことができるようにする

読んだことの内容を理解するだけでなく、内容に関して自分の意見や感想をもち、それらをまとめて書くことが大切である。

指導のポイント

(読むこと)

- ① 読む目的に応じて要点を把握できるようにさせるために、収集・整理した複数の情報を取り出して総合的に判断し、要点を把握するだけでなく、領域間の統合的な言語活動を設定する。
- ② 説明文を読み、筆者の主張を数文でまとめた上で、自分ができること等について、ペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったり、さらにそれを簡潔に書いて表現する活動を取り入れたりする。

(書くこと)

- ① 話題となっている内容を読んで理解し、それを基に思考・判断したことについて、自分の考えや気持ち等を主体的に伝え合う言語活動を設定し、その発話内容を整理しながら書くなど、領域間の統合的な言語活動を取り入れる。
- ② 環境問題や科学技術の発達、社会貢献等を話題として実際の生活において必要な場面を想定した言語活動を通して、自分の意見や感想等を深め、「書くこと」の活動に取り組みせる。

・参考：中学校学習指導要領解説外国語編(H29.7) P.28 P.60～P.61 P.68～P.69

(3) 英語 「書くこと」設問番号 10 まとまりのある文章を書く

学習指導要領の領域：エ書くこと(オ)

評価の観点：外国語表現の能力

問題形式：記述式

【出題の趣旨】 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながり等に注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

2つの案の対比を通して、理由を明らかにしながら、自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題

〈 関連する問題 〉 30 年度予備調査 10

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。



※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（, や ? など）は語数に含めません。

（例）No, I'm not. 【3語】

正答例 I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library.

学習指導上の留意点

○ 自分の伝えたいことや情報、考えたことや感じたこと等を明らかにし、それらを整理した上で、内容的にまとまりのある文章を書くことができるようにする

文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書けるようにするとともに、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫することが大切である。

指導のポイント

- ① 挨拶状、ホームステイにまつわる手紙、家族や親戚、友達等に近況を伝える手紙、旅行先からの手紙や葉書、電子メール、関心のある話題についての新聞への投稿等、生徒が関心をもっている身近な話題や生徒の体験等と関連付け、意欲的に書く機会を増やす。
- ② 学校行事や部活動、休日の過ごし方等、具体的に関心が高く、想起しやすいものをテーマに設定し、簡単な語句や文を用いて、日記等の形式によって、英文を書く機会を増やす。
- ③ 出来事等を説明するために基本的な語彙や表現に親しむ機会を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の活動を通して多く与え、「書くこと」の活動につなげる。
- ④ キーワードを整理して書くことや、5W1Hを意識しながら全体の構想を考えて書くこと、文と文のつながりを示す語句を効果的に用いながら書くことができるように指導する。
- ⑤ 教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想等を、スピーチの形式や、新聞やホームページ等への投稿文の形式で書いたり、ディベートの立論形式に則って書いたりする活動を取り入れる。

・参考：中学校学習指導要領解説外国語編(H29.7) P.27～P.28 P.67～P.69

(4) 英語 「話すこと」設問番号2 即興でやり取りをする

学習指導要領の領域：イ話すこと(ウ)

評価の観点：外国語表現の能力 問題形式：口述式

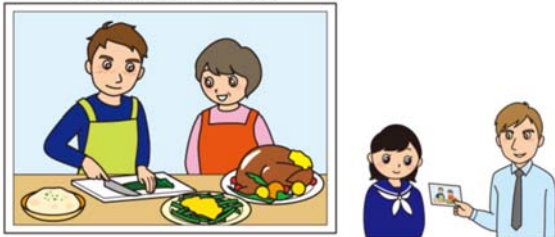
【出題の趣旨】 聞いて把握した内容について、やり取りすることができるかどうかをみる。

情報や考え等を即座にやり取りしたり、相手の発話の内容を踏まえて、それに関連した質問や意見を述べたりして、会話を継続させていくことができるかどうかをみる問題
〈 関連する問題 〉 30年度予備調査12

2 スクリプト

あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続いていくように英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは始めます。

アラン先生が見せている写真



A: Look at this picture of my family.
This is my favorite picture.
Y: Nice! Who is she?
A: Oh, she is my mother, Nancy.
And he is my brother, Tom. He can cook very well.
Y: I see. What kind of work does your mother do?
A: She is a teacher.
Do you have any other questions about them?

正答例 What kind of food does your brother cook?

学習指導上の留意点

- 即興で考えや気持ち等を伝え合ったり、聞いたことを基にやり取りを展開したりすることができるようにする
相手の発話に応じて、それに関連した質問や意見を述べるなど、会話を継続・発展させることが大切である。

指導のポイント

- ① あらかじめ原稿を準備してから話すのではなく、「その場で」考えて、互いに質問したり、意見を交換したりして会話を継続・発展させ、情報や考え等を理解したり、適切に伝えたりする活動を取り入れる。
- ② 聞いて得た内容について質問し合い、応答し合いながら、ペアやグループで多様な考え方や立場を共有する活動を取り入れる。
- ③ 身近な話題を選択したり、スピーチ活動等で扱ったことのあるテーマを取り上げるなど、既習事項を活用したりすることや、伝え合う活動を継続的に設定し、言いたいことを即興で表現できる範囲を徐々に拡大していくことができるようにする。
- ④ 話のきっかけを作ったり対話を始めたりすることや、会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にする場面を言語活動の中に設定する。
- ⑤ 活動中の言語使用について具体的にフィードバックしたり、使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認する機会を与えたりする。
- ⑥ 生徒の伝えようとする意欲を大切にするとともに、会話を継続させようとしている生徒を認めたり、よいモデルとして全体で共有したりしながら、使用する形式を多様にしていく指導を計画的に行う。

・参考：中学校学習指導要領解説外国語編(H29.7) P.22～P.23 P.61～P.63

中学校数学

設問番号	問題の概要	問題形式
★ 6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。	記述式
★ 7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する。	記述式
★ 8(2)	「1日に26分ぐらい読書している生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。	記述式

〈課題〉

- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

【英語】

中学校英語

設問番号	問題の概要	問題形式
★ 4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く。	記述式
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する。	選択式
★ 8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に関する自分の考えを聞く。	記述式
★ 10	学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く。	記述式

〈課題〉

- ・聞いて把握した内容について、適切に応じること
- ・まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解すること
- ・書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見等を捉えること
- ・テーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くこと

平成31年度全国学力・学習状況調査の傾向

区 分	児童生徒質問紙(小学校・中学校)
特 徴	<p>1 分類区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総数は、小学校が12から3減り、9となった。中学校は12から1減り、11となった。 <p>2 質問数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校は、昨年度より4問減り、58問である。新設の質問は、国語科に関する質問9問を含む26問、削除された質問は、30問である。 ・中学校は、昨年度より10問増え、69問である。新設の質問は、国語科に関する質問9問、英語に関する質問14問を含む43問、削除された質問は、33問である。 <p>3 本年度の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・29年度の学校質問紙に新設されたコンピュータ等のICTの活用に関して、児童生徒に授業での使用頻度や活用したいと思うかを問う質問が新設された。小(27)(28)中(30)(31) ・理科の学習についての質問が削除され、国語科についての質問となった。 ・中学校では、英語についての質問が新設された。中(54)～(66)(69) ・中学校では、学校の部活動に参加する主な理由を問う質問が新設された。中(29)
注目すべき質問	<p>1 新設された質問 (質問番号は31年度のもの、~~~~は29年度から復活したもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>小中(7)</u> 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」 ・<u>小中(9)</u> 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」 ・<u>小中(10)</u> 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」 ・<u>小中(11)</u> 「学級みんなで話し合っって決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」 ・<u>小中(12)</u> 「学校に行くのは楽しいと思う」 ・<u>小中(14)</u> 「人が困っているときは、進んで助けている」 ・<u>小中(20)</u> 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。」 ・<u>小中(21)</u> 「読書は好きですか。」 ・<u>小中(25)</u> 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」 ・小中(26) 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」 ・<u>中(27)</u> 「学校の部活動に参加していますか。」 ・<u>中(28)</u> 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか。」 ・中(29) 「学校の部活動に参加する主な理由は、以下のうちどれですか。」 ・小(27)中(30) 「5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。」

- ・小(28)中(31)「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いませんか。」
- ・小(30)中(33)「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」
- ・小(31)中(34)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」
- ・小(32)中(35)「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う」
- ・小(33)中(36)「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う」
- ・小(34)中(39)「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる(取り組んでいた)と思う」
- ・小(37)中(40)「国語の勉強は好きだ」
- ・小(38)中(41)「国語の勉強は大切だ」
- ・小(39)中(42)「国語の授業の内容はよく分かる」
- ・小(40)中(43)「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」
- ・小(41)中(44)「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている」
- ・小(42)中(45)「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」
- ・小(43)中(46)「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由(根拠)を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」
- ・小(44)中(47)「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる」
- ・小(45)中(48)「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」
- ・中(54)「英語の勉強は好きだ」
- ・中(55)「英語の勉強は大切だ」
- ・中(56)「英語の授業はよく分かる」
- ・中(57)「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」
- ・中(58)「あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会(地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)が十分にありましたか。」
- ・中(59)「あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。」
- ・中(60)「英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う」
- ・中(61)「英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う」
- ・中(62)「原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う」

- ・中(63) 「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う」
- ・中(64) 「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う」
- ・中(65) 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思う」
- ・中(66) 「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う」
- ・中(69) 「英語(「聞くこと」「読むこと」「書くこと」)(45分)

2 変更された質問 (質問番号は31年度のもの)

- ・小「国語A(20分)」「国語B(40分)」、中「国語A(45分)」「国語B(45分)」
→小(57)「国語(45分)」、中(67)「国語(50分)」
- ・小「算数A(20分)」「算数B(40分)」、中「数学A(45分)」「数学B(45分)」
→小(58)「算数(45分)」、中(68)「数学(50分)」

3 削除された質問 (質問番号は30年度のもの)

- ・小中(11) 「学校の宿題をしている」
- ・小中(12) 「学校の授業の予習・復習をしている」
- ・小中(13) 「予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしている」
- ・小中(16) 「放課後に何をして過ごすことが多いですか。」
- ・小中(17) 「週末に何をして過ごすことが多いですか。」
- ・小中(19) 「5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う」
- ・小中(21) 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」
- ・小中(23) 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。」
- ・小中(24) 「地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除きます。)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。」
- ・小中(26) 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含みます。)」
- ・中(30) 「数学ができるようになりたい」
- ・中(31) 「数学の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」
- ・中(32) 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」
- ・中(34) 「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」
- ・中(35) 「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている」
- ・中(36) 「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」

理科の学習について

- ・小(38)～小(54)、中(38)～中(51)
- ・小(62)中(59)「理科(40分)」「理科(45分)」

平成31年度全国学力・学習状況調査の傾向

区 分	学校質問紙（小学校・中学校）
特 徴	<p>1 分類区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 総数は小学校が13で変更なく、中学校は13から1増え、14となった。「理科の指導方法」が削除され、「国語科の指導方法」が追加された。中学校では「英語科の指導方法」が追加された。また、「教職員の資質能力の向上」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」「ICTを活用した学習状況」等、分類区分の構成が変更された。 <p>2 質問数</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校では、昨年度より20問減り、64問である。新設の質問は、国語科に関する質問（再掲）6問を含む15問、削除された質問は、35問である。 中学校では、昨年度より1問減り、80問である。新設の質問は、国語科に関する質問（再掲）6問と英語科に関する質問13問を含む31問、削除された質問は、32問である。 <p>3 本年度の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 分類区分に「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」が新設され、小学校・中学校とも7の質問があった。 小(32~38)、中(33~39) 日本語指導が必要な児童数・生徒数を問う質問が再掲された。 小中(7) 部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めているかを問う質問が新設された。 中(22) 中学校では、英語の指導についての質問が新設された。 中(50~62) 家庭学習について、小学校では「国語・算数共通」が、中学校では「国語・数学共通」が、いずれも「教科共通」になった。 家庭学習について、小学校では「算数」「理科」の質問が削除され、「国語」の質問となった。また、中学校では「数学」「理科」の質問が削除され、「国語」「英語」の質問となった。 小(61、62)、中(75~78)
注目すべき質問	<p>1 新設された質問（質問番号は31年度のもの）</p> <p>小中1. 学校規模等（29年度より再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中(7)「日本語指導が必要な児童(生徒)は、何人ですか。」 <p>小中2. 生徒指導等（29年度より再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中(8)「熱意をもって勉強している」 小中(10)「礼儀正しい」 <p>小中3. 学校運営に関する状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 中(22)「部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めている」 <p>小中5. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 小(33)中(34)「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」（29年度より再掲） 小(34)「学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている」 中(35)「学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている」 小(35)中(36)「学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童(生徒)が意思決定できるような指導を行っている」 小(36)「特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている」 中(39)「道徳の時間において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をした」 <p>小中6. 国語科の指導方法（29年度より再掲）</p>

- ・小(39)中(40)「補充的な学習の指導」
- ・小(40)中(41)「発展的な学習の指導」
- ・小(41)中(42)「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」
- ・小(42)中(43)「書く習慣を付ける授業」
- ・小(43)中(44)「様々な文章を読む習慣を付ける授業」
- ・小(44)中(45)「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」

中8. 英語科の指導方法

- ・中(50)「補充的な学習の指導」
- ・中(51)「発展的な学習の指導」
- ・中(52)「英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動」
- ・中(53)「英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動」
- ・中(54)「原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動」
- ・中(55)「英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を発表する言語活動」
- ・中(56)「自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動」
- ・中(57)「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動」
- ・中(58)「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動」
- ・中(59)「調査対象である第3学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、どの程度、授業を英語で行いましたか。」
- ・中(60)「前年度までに、英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか。」
- ・中(61)「年間の授業のうち、どのくらいの頻度でALT(外国語指導助手)を活用した授業を行いましたか。」
- ・中(62)「英語担当教師とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか。」

小12中13. 家庭学習

【国語】

- ・小(61)中(75)「家庭学習の課題(宿題)を与える」
- ・小(62)中(76)「児童(生徒)に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除きます。)についての評価・指導を行う」

【英語】

- ・中(77)「家庭学習の課題(宿題)を与える」
- ・中(78)「生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除きます。)についての評価・指導を行う」

2 変更された質問 (質問番号は31年度のもの)

小中2. 生徒指導等

- ・「前年度までに、学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか。」
→小中(14)「学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った」に変更された。

- ・「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」
→小(24)中(25)「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」

小中5. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- ・「児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。」
→小(32)中(33)「児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。」

小12中13. 家庭学習

【教科共通】

- ・「家庭学習の取組として、児童(生徒)に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える」

→小(60)中(74)「家庭学習の取組として、学校では、児童(生徒)に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える」

3 削除された質問 (分類区分や質問番号は30年度のもの)

1. 学校規模

- ・小中(3)「平成29年5月1日現在の第5(2)学年の児童(生徒)数(特別支援学級の児童(生徒)数は除きます。)は何人ですか。」
- ・小中(6)「平成29年5月1日現在の第5(2)学年の児童(生徒)数(特別支援学級の児童(生徒)数は除きます。)は何学級ですか。」

2. 教員

- ・小中(8)「経験年数が5年未満の教員は何人ですか。」
- ・小中(9)「経験年数が5年以上10年未満の教員は何人ですか。」
- ・小中(10)「経験年数が10年以上20年未満の教員は何人ですか。」
- ・小中(11)「経験年数が20年以上の教員は何人ですか。」

3. 児童

- ・小(15)「調査対象日現在の第6学年の児童が、第6学年に進級する際に、クラス替えをしましたか。」

5. 学習指導・生徒指導

- ・小(27)中(26)「教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った」
- ・小(29)中(28)「調査対象である第6(3)学年の児童(生徒)に対する指導において、前年度に、児童(生徒)がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか。」

7. 算数(数学)科の指導方法

- ・小(35)中(34)「前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした」
- ・小(36)中(35)「前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った」
- ・小(41)「調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか。」

8. 理科の指導方法

小(42)～小(51)、中(40)～中(49)

10. 地域の人材・施設の利用

- ・小(53)中(51)「地域の人材を外部講師として招聘した授業」
- ・小(54)中(52)「ボランティア等による授業サポート(補助)」
- ・小(55)中(53)「博物館や科学館、図書館を利用した授業」
- ・小(56)中(54)「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導」
- ・小(57)中(55)「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定」
- ・小(58)「調査対象である第6学年の児童に対して小学校在籍期間中に、教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行ったことがありますか、または今後行う予定がありますか。」

11. 家庭学習

【国語・算数(数学)共通】

- ・小(63)中(60)「保護者に対して児童(生徒)の家庭学習を促すような働きかけ」
- ・小(65)中(62)「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与える」

【算数(数学)】

- ・小(67)中(64)「家庭学習の課題(宿題)を与える」
- ・小(68)中(65)「児童(生徒)に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除きます。)についての評価・指導」

【理科】

- ・小(69)中(66)「家庭学習の課題(宿題)を与える」
- ・小(70)中(67)「長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与える」
- ・小(71)中(68)「児童(生徒)に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除きます。)についての評価・指導」